

スペシャルニーズのある方に対する歯科における関わり方 ～発達障害を中心に～

日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座
地主 知世

1

口腔の機能



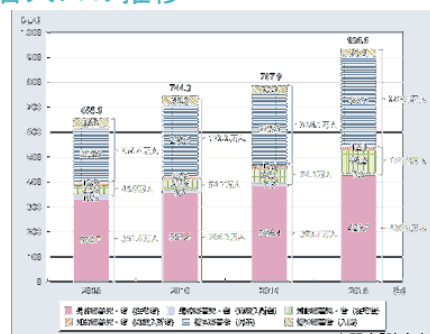
歯科の役割

- ・口腔内感染症の治癒・予防
- ・口腔機能の回復・維持
- ・食べる意欲の向上
- ・コミュニケーション機能の回復
- ・全身状態・QOLの向上
- ・全身感染症の予防
- ・社会経済効果

口から始まる健康をサポートする

3

障害者人口の推移



内閣府「障害者白書」：図2-2-1より

4

スペシャルニーズデンティストリーとは

一般歯科と異なる点は

- ①医療安全
- ②診断、治療方針
- ③行動調整
- ④歯科保健

に対するスペシャルニーズが必要である。

5

- ・危険性を予測し、事前に**患者情報を収集**しておく。
- ・患者も術者もストレスを少なく安全に歯科治療が行えるように**環境整備**する。

障害者だから困難と思われがちな歯科治療も、
実は工夫によって可能です！！

6

①情報を収集する

- ・障害、全身状態について
 - 種類、程度
 - 理解程度
 - 協力程度
 - 口腔の受容程度
 - 症状、進行状態、服薬内容
 - 上腕や手指、顎関節などの可動域 など

7

①情報を収集する

- ・患者をとりまく環境について
 - 周囲の理解力と協力性
 - 経済的問題
 - 他職種との協働と連携
- ・コミュニケーションについて
 - どのような情報が入りやすいのか

8

②環境を整える

- ・Four Handed Dentistry、トレーシステムの採用
- ・診療室の環境の整備
- ・器具の整備
- ・行動調整法

9

行動調整 (behavior management)

- ・経験がない、新しい事象への適応能力が未発達
 - ・治療の意義が理解できない
 - ・何をどの程度されるのか見通しがつかない
 - ・不安や恐怖が大きい
 - ・感覚の異常
- ⇒**不適応行動**として表出し、円滑な歯科診療の妨げになる

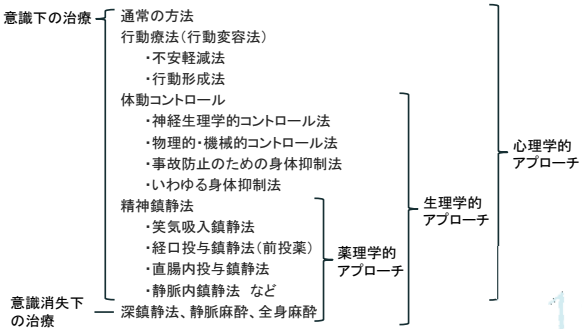
10

行動調整 (behavior management)

歯科診療の妨げとなる患者の不適応行動の表出を制御し、
患者・術者ともにできるだけ快適な環境下で、安全で確実な
歯科治療が行えるよう**患者の心身の状態を調整していく**方法

11

障害者歯科で応用される行動調整法



12

行動調整法の選択時に考慮する要因

- ・不適応行動が誤学習or未学習によるものなのか
- ・発達年齢、成育歴、性格、母子関係、認知・感覚障害の程度
- ・障害の種類・重症度、合併症の有無
- ・歯科治療の内容・歯数・侵襲程度・緊急度
- ・通院に要する患者と家族の負担
- ・術者側の行動調整力、歯科医療機関の設備・人的要因
- ・患者や家族の希望・考え

13

不安軽減法

《リラクセーション》

- ・歯科治療に対する不安や緊張を軽減させるために患者の気持ちをリラックスさせる方法。
- ・指示に従うことが困難な患者で自ら行うことは困難。
- ・成人の歯科恐怖症患者では実施できる。
- ・医療者側の言動や態度、診療室の整備など周囲の環境づくりにも配慮が必要。
- ・歯科では天井テレビ、好きな音楽を聴くなど

14

《系統的脱感作》

- ・不安や恐怖刺激の**弱いものから強いもの**へと段階的に提示し、その刺激に慣れることで恐怖を減少させていく。
- ①不安階層表の作成
 - ②不安制止反応を獲得
 - ③刺激の曝露

15

《フラッディング》

- ・**強い恐怖や不安を生じさせる刺激**にさらし続けることによって、恐怖や不安を減少させる。
- ・系統的脱感作とは対照的な方法。
- ・時間の経過とともに不安が減少するという慣れ、怖いと思っていたものが実は怖くないという認知の変化による。
- ・恐怖刺激から逃げたり避けたりすると効果がない。
- ・患者に一定の理解力が備わっていないと恐怖心を増大させる危険性がある。

16

《Tell-Show-Do法》

- ①Tell:これから何をどうするのか患者に理解できる言葉で具体的に説明する。
- ②Show:実際にやってみせ、視覚的に理解させる。
- ③Do:話してやって見せたとおりに実際に行う。



17

《カウント法》

- ・数を数えながら刺激を提示し、その間は開口や静止維持することを条件付けさせる。
- ・数えることで時間経過と到達目標がわかり**見通しがつく**。
- ・数を数えることに注意がひきつけられ刺激が小さくなる。
- ・3歳以上の発達年齢に効果がある。

18

行動形成法

《オペラント条件づけ》

- ・**ごほうび(報酬、正の強化子)と罰(負の強化子)**をタイミングよく与えることで、好ましい行動を増やし、好ましくない行動を減らして適応行動を育てていく。
- ・適応行動が現れたときに、その行動を強化し定着させる。
- ・不適応行動が現れたときには罰を与える。
- ・正と負の強化子はその場で即座に与える。
- ・正と負の強化子は行動に対して毎回与える。

19

《トークンエコノミー》

- ・あらかじめ約束した行動ができたときに**トークン**を与え、それが**一定量たまったら特定のものと交換**できるシステム。
- ・トークンにより行動を高い水準で維持できる。
- ・プログラムの中断が避けられ、受診の継続が維持される。

20



21

《シェイピング》

- ・目標となる行動を**段階的にスモールステップに分けて設定**し、ひとつずつステップアップしながら、最終的に目標行動ができるようにする。
- ・各々の能力に合ったステップの設定をし、高すぎて失敗しないよう、成功体験で強化をはかりながら進める。



22

《ボイスコントロール》

- ・声の強弱、高低、口調などを患者の行動に合わせて適宜使い分けて話しかけることによって、術者の意思を的確に患者に伝え、行動をコントロールする方法。
- ・患者が上手に歯科治療を受けているときは**静かに優しく**話しかける。
- ・不適応行動を起こした際には口調を強めた大きめの声で話す。

23

観察学習

《モデリング》

- ・言葉による説明やTSD法では十分に理解が得られないとき、他の患者の**治療を観察**することによって理解を促し、適応行動を引き出す方法。
- ・実際の診療場面を観察させる**直接的モデリング法**と、ビデオや写真を用いた**間接的モデリング法**がある。

24

母子分離は必要か？

障害者歯科においては、同席してもらうことが多い！

- 患者の行動変容を間近で見ること、**保護者・介護者の意識の変化やモチベーションの維持・向上につなげる。**
- 口腔内を実際に見せて治療内容を説明することで、**信頼関係を築きやすくする。**
- しかし、患者の甘えや保護者の声掛けなど診療への介入が非常に強い場合には、教育的環境を作るために母子分離を選択することもある。

25

知的能力障害

- ・治療や口腔清掃への理解力不足、協力困難
- ・食行動異常(ダラダラ食べ、過食)
- ・反芻、異食癖による酸蝕
- ・口腔感覚の異常: 感覚過敏、鈍麻
- ・口唇、舌の低緊張による筋萎縮→食渣残留
- ・運動の巧緻性の遅れ
- ・協調運動獲得の遅れ

26



口腔清掃不良
自浄作用の低下



齲蝕、未処置歯の多発
歯肉炎、歯周炎の多発
摂食嚥下障害

27

知的能力障害に対する関わり方

- ・歯みがきを嫌がるときには、まずはその原因を探る
- ・歯みがきは治療ではなく、生活習慣であるという認識を
- ・場所や環境の変化がないように、環境を整える
- ・繰り返し同じパターンで指導する
- ・具体的なかたちで示したり、模型や写真、絵などを使用する

28

自閉スペクトラム症

- ・進行した齲蝕、未処置歯が多い
- ・甘味への固執→低年齢からの齲蝕罹患
- ・自傷、パニックによる外傷、歯肉退縮、歯の脱落
- ・二次的な歯列や咬合の異常
- ・口腔感覚の異常→過敏
- ・こだわりによる偏食、過食、嘔吐、異食、反芻



31

構造化

「文章で示された内容を図で示されたらよくわかった！！」
という経験ありませんか？

構造化とは、環境や活動を視覚的に示し、患者が適切な行動をとりやすい環境設定をすること。

34

感覚過敏

諸感覚が過敏で、日常生活に困難さを抱えている状態

- ・視覚過敏: 強い光、色、ゴチャゴチャしている場所が苦手
- ・聴覚過敏: 大きな音、赤ちゃんの泣き声が苦手
- ・嗅覚過敏: 匂いの強いもの、食べ物の香りが苦手
- ・味覚過敏: 味、食感、舌触りが苦手
- ・触覚過敏: 肌に触れる様々なものが苦手

29

自閉スペクトラム症に対する関わり方

- ・感覚過敏があるため、診療室の環境面に配慮する
- ・複数の情報を同時に処理する、先を読むことが苦手なため、1回に伝える指導内容は1つとする
- ・視覚優位のため、視覚的媒体を使用する
- ・こだわりが強いため、日常の行動パターンや興味を示すものを把握しておく
- ・思いどおりにならないとパニックを起こすこともあるので、無理強いせずにゆっくりと学習させていく

32

- ①物理的構造化: 各空間を物理的に区切ることで、各空間や場面で何をすればいいのかわかりやすくする。聴覚や視覚刺激を制限することができる。
- ②時間の構造化: スケジュールの可視化。内容や順番を視覚的に示し、始めと終わりを明確化することで、見通しを立てられるようにする。
- ③活動の構造化: ある活動と必要となる行動とを紐づけて、主体的な行動を促す。
- ④言語表現の構造化: わかりやすくシンプルな言葉で統一し、具体的に伝える。否定的な言葉を避け、肯定的な表現に言い換える。

35

脱感作療法

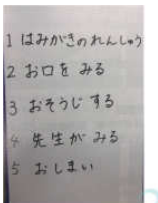
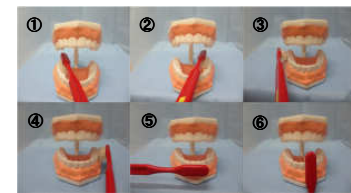
- ・どの部位に過敏が存在しているのか確認する
- ・身体の正中に遠いところから始め、徐々に正中に移行する
- ・広い面でしっかりと触れ、ずらしたり離したりしない



30

TEACCH法

絵カードや写真などの視覚媒体を利用して理解を促す



33

スペシャルニーズのある人に対する
歯科における関わり方

優しく愛情をもって接することで、安心できる環境・人間関係を！
根気よくコミュニケーションに努める！
嘘をついたり騙したりしない！
行動変容法にも限界があることを認識しておく！

36